



3月21日(春分の日)、会員約30名による野焼きを実施しました。19日の予定が雨で順延となり、予備日の実施となりました。

今回野焼きを行ったのは、昨年野焼きを行わなかった放棄地2.5ha。昨年の6haに比べるとだいぶ楽でした。野焼きはお昼ごろに終了し、燃え残った灌木の除去作業などを行って予定を終えました。

右の写真は野焼き後に撮った記念写真です。後ろの黒い丘が野焼きを行った場所です。

で参加の皆さん、本当にお疲れさまでした。









2006年6~8月の活動予定

この夏の活動としては、以下のようなものを予定しています。時間の都合がつく方は、ぜひご参加ください。

- ■野の花観察会 7月9日(日)
- ■野の花観察会 8月5日(土)
- ※観察会の具体的な時間や場所については、あらためてメール等にてお知らせします。

4月29日、 今年初めての観察会。

4月29日(土)、今年初めての「野の花観察会&パトロール」を開催しました。 参加者は39名。薄く雲が広がって暑すぎず、山歩きにはほどよい天候でした。

野焼きや草刈りを行った管理地には、驚くほど多くの植物が観察されました。 熊本大学薬学部の皆さんによると、43 種類もの植物が確認され、その中には、 ハナシノブ、ケルリソウ、ヒメユリ、ツクシトラノオ、ツクシマツモト、サクラソウ、アソタカラコウなどの絶滅危惧種も含まれています。 藪の中で細々と生きていた植物たちが、 野焼きや草刈りによって、本来の姿を取り戻したといえるでしょう。

高低差の大きな山歩き。草むらをかき 分けて進んだり、杉林に入ったり。皆さ ん、お疲れさまでした。







◀ 左:サクラソウ

◀ 右:フクジュソウ 花のまわりに、野焼きの黒 い燃えかすがあります。



◀杉林

この場所では、
このは、
この



NEWS

ナショナルトラスト活動助成制度、第1期助成決定!

2006年3月30日、財団法人自然保護助成基金と社団法人日本ナショナルトラスト協会が昨年度創設した「ナショナルトラスト活動助成制度」の第1期助成先に、我が国で唯一、私たち阿蘇花野協会が選定されました。この助成金によって購入される草原は10ha。「PRO NATURA RESERVE 阿蘇花野トラスト」と名付けられ、野焼きや草刈りを行い、美しい阿蘇の「花野」を再生・管理してゆきます。

NEWS

熊本ファミリー銀行より、寄付をいただきました!

熊本ファミリー銀行の「第2回ふるさと環境応援定期」寄付に、阿蘇花野協会が選ばれました。5月19日グランメッセ熊本で開催された「インフォネットフェスティバル2006」において、寄付金贈呈式が行われました。

阿蘇花野協会への期待

副理事長 山中 守(熊本大学教育学部教授)

阿蘇の草原には、すばらしい希少植物が多く自生し、その風景は見事です。しかし、草原放棄地が急増しています。特に、入会地が少なく、個人所有が多い地域では深刻な問題です。私が調査(航空写真と現地調査)した地域では、1969年と2005年とを比較すると、この約35年間に草原は35.1%まで減少していました。それに伴って、広大な草原景観も急変してきました。

私たちのグループで草原放棄地の草刈りと野焼きをすることにより(ちなみに私はあまり労力になっていませんが)、草原を再生することにより多くの希少植物が再生してきました。この草原再生地の斜面を這いずり回っていると(散策という姿ではありません)、いろいろな事が見えてきます。

例えば、戦後経済の変化からみた草原の価値の変貌について考えさせられます。もともと草原の価値は、農家が家族同様に大切に飼育していた牛の飼料としての価値でした。しかし、戦後の農業の機械化と牛肉の輸入自由化により、あか牛は役畜として働く場が無くなり、失業しました。つまり、役畜としての「職」を失い、肉牛としての「食」の評価が高まりました。その結果、効率的な食肉生産のために草原放棄地が急増してきました。

牛の飼料としての草原の価値は低下したのですが、 希少植物の自生環境としての価値は急速に高まって います。草原は私たちの心を癒してくれる希少植物の 宝庫として、魅力満載です。

草原は昔から同じ草原ですが、私たちの生活環境が変わったため、草原の新たな価値に気付きはじめたといえます。このことから自然の計り知れない潜在的な価値の奥深さを学ぶことができます。これから何十年後においても、草原は現在の私たちには気付かない新たな価値を発揮しているものと思います。草原再生と保全の大切さを改めて実感しています。

感動は若返り・長生きの秘訣

理事 矢原正治(熊本大学薬学部助教授)

植物の成分研究をしていると、野生の植物を大量に採取します。私の先輩で200kg位集めた人がいます。 私の年代は分析機器が良くなってきたので減ったものの、それでも5~10kg位採取していました(使用部位で)。ずいぶんと自然を荒らしてきました。それを反省してでしょうか、または環境に足を突っ込んでから20数年来、少しは自然環境を考えるようになり、昨今はイッチョ前に環境の話をしています。また熊大薬学部で環境ISO14001の取得も経験しました。

阿蘇花野協会の創立にあたり、瀬井先生から理事の依頼があり、地元・阿蘇の草原再生ということで引き受けました。NPOの理事も3ケ目で、二つは本部が東京ですので理事と言っても名前だけ、その反省からか、花野協会の会議・イベントには真面目に出席しています。

1年少々参加してみて、感じたことを並べてみます。 プラスの側面として、1)草花が目に見えて多くなった。 2)感動が多くもらえる。3)多くの知人が増えて。4) 沢山の汗を流し健康維持に役立った。5)旨い酒が飲め、 旨い肉が食べられる。

マイナスの側面として、1)草刈り、草集めの労働は やはりキツイ。2)野焼き、草刈り、草集め等基本的な 維持管理費が不足(約200万円/年)。3)良いところだ けに参加する人が増えた。4)学生の参加者が伸び悩 んでいる。5)会員の年齢が高い。

これからの課題を二三あげてみます。1) 賛助会員(金を出して、口手足は出さない)を2万人にする。(一口千円で2万口)。2) 学生にもっと利点、感動等を啓発し、参加を呼びかける。"汗を流してつかんだ感動は本当に素晴らしい"(山登りと一緒かな)。感動を若い人に伝えたいものです。

阿蘇の植物を使ってしたい研究は、1)遺伝子解析、2)阿蘇の植物の機能性、3)ゴミから宝物を見つけたい、4)何かの形での有効利用。

★☆皆さん草原再生に参加してみませんか"感動が待っています"感動は若返り・長生きの秘訣です★☆

阿蘇花野協会はすごく旨い肉を食べている、その証拠写真。 拡大すると、網の上の肉がきわめて上質のロースであり、参 加者の顔があまりの肉の旨さに崩れているのが分かる。 photo by 矢原正治



阿蘇花野協会

〒862-0924 能本市帯山7丁目1番60号 TEL&FAX 050-6620-8306

本号に掲載した写真は瀬井理事・稲益理事・矢原理事のご提供および森撮影分。なお、「花野たより」は年4回発行。次回配信は8月末頃の予定です。会員の皆さま、今後ともよろしくお願いいたします。編集部へのご意見・ご要望、励ましなどはメールでよろしく。mor7@orange.ocn.ne.jp(広報担当:森)